

## 第10期岡山県生涯学習審議会 第4回会議 議事概要

日時 平成28年12月21日(水) 14:00～17:00

場所 岡山県庁分庁舎1階共用会議室101

### 1 開 会

### 2 議 事

#### (1) 報告事項

岡山県生涯学習審議会提言後の対応状況について

#### (2) 協議事項

「教育県岡山の復活を目指した家庭教育の充実」について

#### (3) その他

### 3 閉 会

#### <議事概要>

○「2 議事 (1) 報告事項 岡山県生涯学習審議会提言後の対応状況について

事務局

6 ページ資料 1 を説明。

質疑事項特になし

○「2 議事 (2) 協議事項 「教育県岡山の復活を目指した家庭教育の充実」について

会長

まず、議事に入る前に、今回のテーマ「教育県岡山の復活を目指した家庭教育の充実」について、テーマの設定理由、その協議内容や今後のスケジュール等について事務局から説明願います。

事務局

9 ページ資料 2 を御覧ください。テーマ「教育県岡山の復活を目指した家庭教育の充実」の設定理由は、教育県岡山の復活に向けて、全ての教育の出発点である家庭の教育力を高めることが重要であり、現在策定中の「新晴れの国生き生きプラン(仮称)素案」においても、学力向上プログラムの推進施策として「家庭の教育力を高めることによる、子どもたちの生活習慣と学習習慣の定着」を掲げている。県教育委員会では、保護者に対して、家庭教育に関する情報や学習機会の提供を行うとともに、家庭訪問や電話等による相談体制の強化に努めることにより、家庭教育支援の充実を図っているが、まずは、家庭教育

の現状や課題について、委員の皆様から御意見をいただき、家庭教育の充実のための方策について御協議願いたい。スケジュールについては、今回は、家庭教育の現状と課題について協議いただき、次回（3月予定）は、今回の協議内容を整理した上で、方策について協議していただき、3回目（6月予定）では、方策の協議内容を整理した上で提言案の取りまとめを行い、7月には仕上げさせていただきと考えている。

参考までに10ページに、家庭教育に関する岡山県的主要な行動計画を紹介させていただいている。

会長 事務局の説明のとおり、県の様々な行動計画の中に家庭の教育力の向上に関するものがあり、今回は、その家庭教育の充実について着目して、現状や課題、そして方策等について議論し、前回と同様に提言を仕上げている、具体的な施策に繋がるようにしていきたいと考える。御意見があれば伺いたい。

委員 家庭の教育力の現状については、どういう共通認識を持てばよいか。

会長 家庭の教育力に関する現状については、この後説明があると聞いている。

委員 家庭教育をテーマとして審議会としての提言をまとめることは賛成だが、気になる点がある。一つ目は3回の会議では十分な議論ができないと思う。二つ目は、家庭教育について議論するには、ある程度の専門的な知識が必要ではないか。あと三つ目は、社会教育委員の会議で数年前に議論して教育長に提言している。また、「おかやま子ども応援」推進委員会においても家庭教育について議論している。このように似たようなことを他でもやっている。では、この審議会でも何をやるべきかを考えたときに、社会教育委員と同じことをやっても意味がない。社会教育法では社会教育委員は教育委員会に意見を言うことができる。一方、生涯学習審議会は、生涯学習に資するための施策の総合的な推進に関する重要事項を調査審議することとなっており、教育長だけでなく知事に対しても建議することができる。ということからすると社会教育委員と異なることをしないと意味がないのではないか。教育委員会以外にも保健福祉部が担当している「おかやまいきいき子どもプラン」や県民生活部が担当している「岡山県子ども・若者育成支援計画」など、県の計画や施策、そして27市町村の状況も把握するなど総合的に審議した上で、教育長ではなく知事に提言してはどうか。

都道府県における生涯学習審議会の設置状況であるが、東日本は、生涯学習審議会と社会教育委員の会議を両方設置しているところが多いが、西

日本は、両方設置しているところはほとんどない。岡山県は両方あるのだから、双方同じことをするのはなく、違ったことをしないとイケないのではないか。

会長 教育委員会だけでなく広い視野からの意見だったと思う。家庭の教育力のことについては従来より議論されてきたことや、生涯学習審議会は社会教育委員との違いを見せていかないとイケないといった発言だった。その点、事務局から何かあるか。

事務局 テーマ設定について御賛同いただき感謝する。3回の議論では十分ではないという御意見については、家庭教育に関する個々の施策ベースについて議論するなら十分だと考えている。

家庭教育について県の様々な計画を含め総合的に議論し知事に提言するというのであれば2年程度要すると思う。

会長 これまでも、生涯学習審議会では教育委員会の枠組みだけでなく首長部局との連携が重要だという提言をし、それを受けて具体的に動き出していく体制づくりをしているところを見ると、家庭教育についても、広い分野の方々から、いかに家庭の教育力を高めていくかといった意見を出してもらい、どういった施策が有効なのか、首長部局との連携など今までないものを打ち出していくかなど、審議を進めていくべきだと思うが、他の委員はいかがか。

委員 平成29年度の新規事業で、県教育委員会と県民生活部との連携事業が打ち出されているが、事務局に県民生活部も入っていてもいいと思う。

家庭教育が必要なのは、不登校の解消などいろんな面で家庭にまで入り込んでいかざるを得ない状況であるからであり、保健福祉の目線も必要となってくる。

会議の回数は何回が適正かについてはいろいろ意見があるが、結局事務局がコントロールできる場所に落ち着くものだと思う。

会長 事務局の構成からやり直すとなると、元から全部やり直すことになる。今は教育委員会を中心に事務局が構成され、今回は家庭教育というテーマで、様々立場の委員からいろんな切り口で意見が出してもらい、家庭の教育力を高めていく施策を考える上での助けとしたいという思いが事務局にあるのだと思う。

- 委員 家庭教育についての審議について、今のメンバーでは十分ではないのかもしれないのだけど、妥協案としてこのメンバーで審議して提言を出していく。その際、提言の中に福祉の視点が足りないということを指摘するものを含めたらどうか。
- 委員 3回の議論で提言を出していこうというのであれば、それでもいいと思う。どんな提言を出すか出口のところをしっかりと持っておかなければならない。県民のために行うのだから手弁当でもいいので必要なら回数を増やしても構わない。
- 委員 県の家庭教育に関する計画の詳細は把握していないし、家庭教育の専門家ではないが、一般的な意見は申し上げられるのではないかと考えている。
- 会長 家庭教育の専門的な意見も大事だが、一般的な意見も大事だと思う。専門家だけで議論するのもいいことだが、一般的な見方も大事だ。  
今回は、家庭教育の現状や課題について、いろんな立場から意見を出してもらって課題をあぶり出し、その課題についてどう対応したらよいかを次回の議論につないでいく、その中で教育委員会の枠だけでは足らなければ他のところにも広げていくといった提言を出していく。回数が足りなければ増やしてもいいのではないと思うが、今回仕上げようとしているのは答申ではなく提言なので3回の会議で十分だと思う。家庭教育に関する施策が予算に反映されるように提言を出していくという方向で審議を進めてよろしいか。
- 委員 了承
- 会長 それでは、「教育県岡山の復活を目指した家庭教育の充実」について、今回は、昨今の家庭や家庭を取り巻く状況、家庭教育支援の行政の取組などを中心に、委員の皆様から思うところを発言していただきたい。  
まず、資料について事務局から説明願います。
- 事務局 資料2・3（P9～24）を説明
- 会長 ありがとうございます。続きまして、資料11ページにある（2）相談体制の充実の取組として、「親育ち応援隊！家庭教育支援チーム推進事業」の紹介につき、実際に取り組まれている事例説明のため、本日は浅口市教育委員会生涯学習課の説明者に来ていただいた。説明をお願いします。

資料4を説明

浅口市親育ち応援隊は、平成27年に家庭教育支援チームとしてスタートした。

浅口市の概要は、県の南西部に位置し、倉敷市の西隣にある。平成18年に鴨方町、金光町、寄島町が合併し、人口約3万5千人で、旧町のそれぞれ中心部から約10～15分程度で、コンパクトな市である。

今回の紹介は旧鴨方町のエリアの取組である。

家庭教育全般として、世の中には子育ての情報はありふれているが、子育ての悩みを相談できる人がいないと言われている。文部科学省の調査によると、約4割の親が子育ての不安を持っている。そのような状況で、親の学びや育ちを支援するためには、子どもの発達段階に応じた親の学びの場の提供、保護者同士や地域とがつながるネットワークの形成などが大切である。

これには、岡山県が作成した「親育ち応援学習プログラム」の活用が有効である考える。

「親育ち応援学習プログラム」の中の「プログラムの一例を紹介します」の箇所を御覧いただきたい。一方的に人の話だけを聞くのではなくて、少人数のグループで子育てに関するエピソードを話し合い、これによって参加者同士が子育てについて共に気づき学びあうことができる。そしてプログラム実施後は、「子育てに悩むのは自分だけでなかったんだ」、「こんなやり方で良かったんだ」とか共感したりするなど、主体的に学ぶことができ、参加者同士がつながるきっかけにもなる。保護者の研修会に導入することで、保護者の学びの場の提供にもなるし、つながりをもつ機会づくりに有効であると考えている。県内の他の自治体においてもこのような取組がある。

続いて、家庭教育支援チームの結成については、ねらいとして、対象は就学前の子どもと保護者で、子育ての悩みを抱えたまま孤立するのを防ぐことが一番の目的である。内容は、情報や学習機会の提供、相談等の支援が行えるよう地域、学校・園、行政が連携して取り組むことによって体制を整備することである。体制を整備していく上で、浅口市には「浅口市親プロ推進チーム」という基盤となる団体の存在があり、平成25年から活動している。きっかけは、平成24年に県が親育ち応援学習プログラムファシリテーター養成講座を開催し、鴨方東小学校のPTA役員2人が参加したことだ。その参加者が私に「よかったからやってみよう。」と相談し、幼稚園から中学校までの浅口市のPTA役員交流会で、「親育ち応援学習プログラム」をやってみることになった。これが非常に好評で浅口市に広げていこうということになった。実際の参加者に、「一緒に親プロをやらないか」と勧誘チラシを作成して誘ったところ、「浅口市親プロ推進チーム」が結成され、今は11人となっている。現在では、市内の小学校や近隣自治体、備中地区の社会教育関係者が集う会に声をかけていただいて活動しているところである。

続いて、「あさくち親育ち応援隊」については、「浅口市親プロ推進チーム」を核として発展させたチームで、子育て支援拠点施設「つどいの広場」との連携を目指したものである。目指した理由は、平成25年から2年間、小学校を中心に活動していたが、もう少し早い段階から「親プロ」ができないか、活動の幅を広げようと考えていた。この「つどいの広場」は浅口市子ども未来課の管轄で、平成26年の機構改革で、従来は市長部局の子育て支援課が管轄だったのが、0～15歳まで教育を統括して行うために教育委員会に子ども未来課という名称で移ってきた。そのことで連携がやりやすくなったのも要因の一つであり、加えてチームの活動が主任児童委員の理解を得られ、いろんな人を巻き込んでの相談体制の構築を期待して、平成27年に「あさくち親育ち応援隊」を結成し、より早い段階からの支援活動を開始した。チームの構成は、浅口市親プロ推進チーム、子育て支援拠点施設「つどいの広場」保育士、主任児童委員からなる。他にも状況に応じて市の保健師や学校・園の教職員にも協力を得ている。

活動内容と成果は、「つどいの広場」との連携が大きな成果だ。これは、子ども未来課との連携でもある。以前から主任児童委員から、「保護者が早い時期にいいサポーターを見つけられるとよい、就学後では効果があまり出ない」と指摘を受けていたところ、「つどいの広場」という子育て世代が集う拠点と連携することで、早い段階からの支援ができるようになったことが大きいと受け止めている。また、浅口市親プロ推進チームが訪問して保護者への学習機会の提供やつながりの機会を提供することや交流・相談事業を行うことで、保護者に子育てに対する安心感を持ってもらうことや保護者同士のつながりを持たせて孤立化を未然に防ぐことにつながっていると感じている。「顔見知りの方と話せるいい機会になった。」「子育ての先輩から話が聞けて良かった。」「今まで一人で子育てに悩んでいたが、いろんな人と楽しみながら子育てをしていきたい。」といった声も聞くことができた。また、希望者を募って公民館でやるよりも、訪問してやることの方が効果があるのではないかと感じている。主任児童委員や「つどいの広場」の保育士との連携は、相談しやすい雰囲気づくりにもつながったと感じている。さらに、親プロで工夫しているところは、研修が終わったら、すぐ解散するのではなく、そのままその場に残って雑談する時間を設けているところで、保護者同士や浅口市親プロ推進チームのスタッフとのつながりづくりになっている。

他に成果としては意識共有がある。市内の小学校で、多くの保護者が参加する就学時健康診断や入学説明会の機会に浅口市親プロ推進チームが訪問して同様の成果をねらった取組を行っている。その他、中学校PTAの研修会でスマホ問題を取り上げたプログラムを実施したりもしているが、いずれの取組においても実施後の参加者へのアンケート結果を検証して学校園と情報を共有している。学びの機会やつながりづくりが大切であることを共通認識し、多く

の保護者に親プロを体験してもらい体制づくりにつながったと捉えている。

入学説明会で多くの保護者に親プロを体験してもらっているが、欠席者保護者に対しては、研修の内容をまとめたチラシを作成して、主任児童委員と一緒に家庭訪問して、「研修内容のお知らせですよ。困ったことがあったらここに相談してください。」とチラシを渡すなど、個別対応も今年から始めている。そういったことも学校園と情報共有しながら続けていきたいと考えている。

続いて、プラスアルファの効果は、こうした活動の機会が増えることによってチーム員のレベルアップにつながっていることだ。子育ての先輩として訪問しているが、保護者との交流することで逆に学ぶことが多く、学びの循環にもなっていると感じている。学校で親プロを実施する際は、教職員のサポートがあるのだが、実施後は校長室で教職員と一緒に反省会をし、次の親プロの計画をするなど、継続的な活動となるような体制づくりにつながっている。

今後の課題は、保健福祉部局との連携強化である。先ほど、主任児童委員と一緒に親プロを欠席された保護者への訪問について触れたが、チームづきの主任児童委員が1名だけということだ。今後、それぞれの小学校区にいる主任児童委員と同行できるようになれば、個別案件などの情報収集や親プロ欠席者への事後対応が効果的になるのではないかと考えている。他の課題としては、チーム員の充実である。こうした活動は継続性が大切であり、世代交代などを視野に入れると、後継者となるボランティアを常に探さなければならない。今活動しているボランティアは、活動がある時は、仕事を休んで来ているので、事業が増えるとそれだけ負担が大きくなるので、なるべく多くの人材を確保したいと考えている。人材確保は、とても難しい問題であるがねばり強く続けていきたい。

駆け足での説明だったが、この取組をきっかけに関係部局と連携をとりながら、継続、拡充していき、地域みんなで子育てを支援していくまちづくりをするよう頑張っていきたい。

会長

ありがとうございました。素晴らしい取組の紹介でした。

御質問等あるかと思うが、ここで休憩を取りたい。15時50分に再開し、再開後は発表内容に対する質疑応答としたい。

休憩

会長

時間がきたので再開する。ここからは、休憩前に事務局から説明があった家庭や家庭を取り巻く状況、浅口市による家庭教育支援の実践についての発表があったが、御質問等あれば発言願いたい。

委員

学校園とはどういう意味か。

事務局	学校と幼稚園を含めて学校園と表している。
委員	基本的なことであるが、今回のテーマを議論していくにあたり、政令市を含めるのか、含めないのか。あと1点、「家庭教育の充実」をテーマとした理由を教えていただきたい
事務局	政令市については、岡山県全体の取組として含めて議論していただきたい。 テーマの設定理由については、家庭教育はすべての教育の出発点であり、最重要課題であると考えているためである。背景には、データで示したように、核家族化、三世帯世帯の減少、地域のつながりの希薄化などにより、子育てしている保護者が身近な人から子育てを学ぶ機会が減っている。そうした中で、子育てに対して不安や負担を感じたりする方が孤立化してしまうことで、様々な問題を起こしてしまったり、過保護、過干渉、無責任、放任などに走ってしまうのではないかと考えている。そういう状況で、私的な家庭教育を公的にどのように支援できるかを考えると、保護者を孤立化させないように地域で支え合うことが非常に大事なことである。先ほどの「親育ち応援学習プログラム」や「家庭教育支援チーム」のファシリテーターなどは地域の方が行っているように、地域で家庭教育を支えていくという観点で進めている。今後も社会全体で子育て家庭を支えていくことが重要だと考える。
会長	家庭教育は、かねてより大事だと言われ続けており、これまでも様々な施策が行われてきたが、家庭の教育力の向上はなかなか難しいことであり、依然として大きな課題である。
委員	浅口市の取組について尋ねたい。紹介いただいた事業の予算規模、抱えている課題に対して予算が増額されれば克服できるものなのか、それとも課題はお金で解決できないものなのかを教えていただきたい。
浅口市教育委員会生涯学習課	「あさくち親育ち応援隊」は、岡山県からの委託事業でありまして、年間約15万円の委託料をいただいている。経費としては、広報用チラシ作成のための印刷代、ワークショップで作成する模造紙や付箋などの文具程度で、十分な予算である。他の自治体はわからないが、浅口市の場合は、それほどお金はかからない。
委員	子ども未来課には何人スタッフがいるのか。

浅口市教育 委員会生涯 学習課	7人で構成しており、先ほど紹介した子育て支援拠点施設を含め、市内の保育園や幼稚園を管轄している。
委員	「つどいの広場」は児童館のようなものか。
浅口市教育 委員会生涯 学習課	イメージとしてはそうだ。公民館の一室を借りて、保育士が2名常駐しており、開館時間中は、0歳から3歳までの子どもを連れて保護者が自由に出入りして子どもを遊ばせたりしている。
委員	それは、浅口市に一箇所だけか。
浅口市教育 委員会生涯 学習課	二箇所ある。連携している拠点の方は旧鴨方町にあり、もう一つは旧寄島町にある。
委員	土日も開いているのか。
浅口市教育 委員会生涯 学習課	週4日で、月・木・金・土曜日の9時から17時まで開館している。
委員	ありがとうございました。2名の保育士を常駐させることは相当な費用がかかるので大変だと思う。
会長	他に質問はないでしょうか。なければ、家庭や家庭を取り巻く状況、家庭教育の現状や課題など御意見があれば発言していただきたい。
委員	つながりについてだが、親子のつながり、保護者同士や地域とのつながりが持てない方がいることや、お隣同士でも話をしていないといったことをよく耳にする。このような状況であるため、テーマを家庭教育に着目されたのだと思う。浅口市の取組のように、私も数年前「親育ち応援リーダー養成講座」を受講して、津山市で親プロの活動に関わっている。保護者に希望する学習内容を尋ねると「親同士につながりがないので、親同士で仲良くなれるプログラムをして欲しい。」というものがあり、幼稚園や小学校低学年の子どもを持つ保護者に多い。中学生を持つ保護者は、「反抗期になると子どもとどう接すれば良いかわからないので、そのテーマにして欲しい。」という希望が多い傾向にある。他に、「うちの子さえよけれ

ばいいというような保護者がいる。」ということも保育所の職員からも聞いたことがあり、「他者を認められるようになるプログラムをやって欲しい。」という希望もある。

いろいろな内容のプログラムをやっているが、参観日後の一時間程度、じっとして聞くのではなく、参加型の親プロをやることで、「自分にはない意見をたくさん聞くことによりいろんな気づきがあった。」という声が多いので、こういった地域の方々が子育てを応援する取組がどんどん広がっていくことを期待している。

少し話を変えるが、津山市では年に1度だけ、「心のふれあいトーク」といって、市内の中学校8校から生徒2名ずつが参加し、地域の人の中で、自由なテーマで自分の思いを発表するイベントがある。今、中学生はスマホ問題をテーマとして取り上げることが多く、自分たちのことは自分たちで考えて行動するきっかけづくりをしているが、発表の中でいいなと思ったことは、例えば夜10時以降はラインが来ても無視してもいいとか、「家庭のルール」とは別に「自分たちのルール」を作り上げて実行している話がよかった。もう1人の中学生の発表では、高齢者のために何かできることはないかと常々思いを持っていて、ある日、地域の行事に参加した時に、高齢者に元気を与えようとしたつもりが逆に元気をもらい、自分は地域の人に守られていることに気づいたという発表も聞けてとてもよかった。

私は教育者ではないが、心と心をつなぐことが根本ではないかと考える。勤めの関係やひとり親家庭など、なかなか親子との時間がもてない家庭が多い中で、限られた時間でどうやったらよい親子関係が築けるかということも家庭教育支援としてできたらもっと子育てがもっと楽にできるのではないかと思う。

委員

私は3年前まで中学校の教員をやっていた。「教育県岡山の復活」ということはあまり意識したことはなく、子どもたちが社会に出て行けるよう成長して欲しいという思いでやってきた。「教育県岡山の復活」というのではなく、子どもたちの幸せのことを第一に考えてもらいたい。もし、今の教育が不調であるというのであれば、全国学力学習調査の結果が低迷しているとか、不登校の子どもが多いとか、非行率が高いからということで、「教育県岡山の復活」のために取り組んでいくことは、子どもたちのためにはならない。子どもたちの幸せを考えていく中で、学校だけでなく地域や家庭と連携しながらやっていくことが大事であって、地域で子どもを育てていき家庭をリードしていくというのが家庭教育支援のねらいだと思う。この審議会では様々な分野の方が集まっているので、いろんな意見を出していただき、一歩でも前進できるような提言

にしたい。審議会から行政に向けて、子どもたちが幸せになるための提言を出して応援して欲しいという思いである。

委員

会長は、岡山県青少年育成県民会議の会長であり、私もその一員で、毎年「明るい家庭づくり作文」を読んでいる。「私たちの家庭」「私たちの住んでいる地域」など、こういったテーマで、夏休みの宿題などで書かれたものが寄せられ、私は4～6年生の作品を審査して毎年読ませていただいている。その作品の中で、内容も立派なのだが背景を見てみると、核家族が増えていると言われているが、すぐそばにおじいさんやおばあさんが住んでいるとか、住んでいなくても、定期的におじいさんやおばあさんが訪ねてくるといったつながりが見られた。また、地域の中で知らないおじいさんやおばあさんに助けてもらった内容などが書かれており、まだまだ素晴らしい状況があるのだなと感じている。相対的に、県南と比べ県北の方が地域とのつながりがまだ強いのかなと感じ取れた。

このような作文を各家庭に1冊配付するのも方法ではないか。あまりお金をかけない方法としては、地域の希薄化を解消するために自治会や町内会や親睦会など立ち上げて、地域でしっかりつながりもち、その中で家庭教育の充実についてしっかりやって行きましようと呼びかけていくべきではないかと考える。

会長

岡山県青少年健全育成会議の作文は、県の知事部局の男女共同参画青少年課に事務局があり、そこで教育委員会や学校の教員の協力を得ながら、作文を募集したり審査したりしている。冊子ができれば、事務局から様々方面に配付されることになっている。こういう取組は教育委員会以外でも行われている。できるだけ多くの方に読んでいただきたいと願っている。

委員

「教育県岡山の復活」とあるが、全国学力学習状況調査結果が10位以内になれば達成できるとは思っていない。なぜ教育県岡山と言われるようになったかは、江戸時代の初期に池田光政公が閑谷学校を作ったり、明治時代の私塾の数が長野県と同じように多かった。また、明治時代の小学校の就学率が高かったり、明治41年の高等女学校の設置数が全国1位だったことなどによるものだ。

「教育県岡山の復活」の中には「教育を大事にする県にしよう」というメッセージが込められているのではないかと考え、自分でも「教育県岡山の復活」に取り組んでいる。全国学力学習状況調査は10位とは言わず、全国平均までは行くように、不登校は0にする、それは子どもたちの幸せを考えた時に、生きていくために社会と関わらなくては稼げないからだ。暴力行為は1990年から岡山県はワースト10位から抜けたことはないが、これは地域でのつなが

りが希薄になったからだと考える。「西洋の文化は罪の文化、東洋の文化は恥の文化」と学生時代に学んだ記憶があるが、世間に見られてみっともないとか他人に見られてどう思われるかなどの意識が日本人は強いと思う。それが、コミュニティの密度が希薄化することによって、そのような意識がずいぶん失われ、こうなったのではないかと考える。

全国学力学習状況調査の上位県は福井県や秋田県など北陸や東北に多い。三世帯同居率が高かったり、離婚率が低かったり、統計でも優位な差が出ていると考える。岡山県はコミュニティの希薄化が一番大きな原因ではないかと考え、教育長になってから、地域と共に行う学校づくりというものを懸命に取り組んできた。

不登校対策をやっていくと、結局、家庭へのアプローチが必要となり、そのアプローチは浅口市のように保健福祉部局との連携が必要となってくる。

コミュニティの密度をどのように上げていくかという視点と、コミュニティの最小単位は家庭なので、そこにどうアプローチしていくかという視点のポイントになるのではないかと考える。

委員

私は主任児童委員も20年やっている。また、小学校の学校評議員、中学校の地域コーディネーターもやっており、子どもたちや保護者と関わってきた。根本は家庭であり、一つ一つの家庭が充実していないと学校現場でもいろんなことが起こってしまう。それはみんなわかっているんだけど、なかなか、その家庭にまで入っていけないということがあり、苦労しているところである。

私は、生まれも育ちもずっと岡山で、子どものころから「教育県岡山」とよく言われていた。岡山県だけかと思っていたら、香川県も教育県と言われており、教育県と呼ばれているところが他にもあるようだが、岡山県は、地域と家庭のつながりを大事にするなど、岡山県の特徴を生かした家庭教育支援の提言を最終的に打ち出せたらと考える。また、岡山県内にも地域の実情が異なるので、それに応じたものを何か打ち出せたらいいと考える。

委員

私は先日、「ローカルサミット」という全国の地方で頑張っている方々が集まるサミットに参加し、これから地方でどうやって生きていくかについて分科会に分かれて、中高生が集まる分科会で4時間にわたって話し合い、まとめの内容を聞いたのだが、中高生も自分たちが住む地域について考えているので、その考えを大人に伝える場が欲しいという提言であった。地域づくりに自分たちにも考えがあることを聞いたのがショックだった。分科会のメンバーの中心は、やかげのYKG60のグループの方々の間で、小学生から高校生までが自発的に地域のことを考え、大人が口出しするのではなく見守ってサポートに徹するという取組の中で育てられた中高生だったので、代表となってそういう発表ができたのかなと感じた。このように岡山県内には子どもと大人が地域のことを

一緒に考える成功事例があるので、家庭教育支援についても子どもと大人と一緒に考える場があってもよいと考える。

また、生涯学習の振興には、地域づくりを担う人材の育成も目的の一つであるので、家庭ができないところを地域で支えていくための人づくりも大事だ。

委員

私の子どもの幼稚園の頃から今まで10数年間、PTA役員として関わってきた私個人の観点で申し上げる。昔と今と比べて保護者の価値観が変わってきたのを感じる。子どもが幼い頃は、「あれしよう、これしよう。」と言うと「やりましょう。」とスムーズに進んでいたのが、子どもが大きくなると「なぜこれをしないといけないのですか、何の意味があるのですか。」といった感じだ。個人主義でないが、みんなのためにやるというよりも自分のことさえよければよいといった感じで、PTA役員の人選も難しくなっている。PTAの活動を一緒にすることで、子育ての悩みをお互い聞いてもらったりして、それが解決にはならないけれど気持ちが切り替わり、明日からも頑張ろうというようなつながりの場でもあった。しかし、最近ではそれが難しくなっており、浅口市のような取組をしなければつながりを持たないように感じる。

PTAの研修のテーマで、スマホのことや朝ごはんのことなどいろいろテーマを考えて開催するのだが、本当に参加して欲しい保護者の参加がなく、いつも同じメンバーの参加となりがちだ。届けたくても届かないもどかしさが年々大きくなっているように感じている。

また、保護者の価値観も多様化しており、それを一つにするのは難しいのかもしれない。私が活動してきた10年間で携帯電話が普及し始めて、次にスマホの登場、そしてLINEが始まるなど環境が大きく変化してきた。最初は、親の方から子どもに一方的にダメだと言ってきたが、今卒業する頃には、県のスマホの研修会にも参加したのだが、親だけでなく子どもにも使い方について考えさせ、子どもたちがルールを作るというような時代になってきた。家庭教育について考える時、昔の良かったところをみるのも大事であるが、現状をよく見つめながら家庭教育について話し合える場を設けることがとても大切であると思う。

昔は、相談したい時は、幼稚園の送り迎えを一緒にしていた保護者にする機会があったが、今は集団での送り迎えがなくなったのでそのような機会がなくなった。最近ではスマホで検索すれば簡単に答えが出てきてすぐにわかる。保護者同士が聞いたり聞いてもらったりすることでつながり、つながりが広がっていくのに、スマホの字面だけで止まっている。今のそういった現状をきちんと押さえた上で家庭教育を考えていくべきである。

委員

取材や会社の同僚を見て思うことだが、10数年前の母親たちも子育てがとても大変で、共働きだとしても家事も子育ても全部母親がやっていて不満を漏らしていて、父親もやらなきゃねといった状況だった。今は、父親の育児参加

が増えてきて、会社のサポートも充実してきている状況だ。

浅口市の「親育ち応援学習プログラム」の取組は、今からでもすぐに普及できるのではないかと感じた。また、欠席した保護者への家庭訪問については、抱える課題も把握して次への対応も考えられることから、とても素晴らしい取組だと思う。こういったことを提言できればよいと感じた。

また、学校園とは、幼稚園と学校と聞いたが、是非保育園についても対象に入れて欲しい。

委員

「最近の親は」という話が出たが、その親を育てたのは我々の世代だ。孫の教育に関わらないようにしている話も聞いたことがあるが、それでいいのだろうかと思う。子育てを終えた親たちに対しても教育しないといけないのかもしれない。また、今はタテの関係やヨコの関係が切れてしまっている方々が増えてきているようだが、そういった方々にどういった手立てを施せるのかを考えなければならないと思う。

委員

配付資料の「我が家のすこやか日記」を目を通してみたのだが、とても素晴らしいので紹介しておく。

他に、自然災害のことで、岡山県も安心しておられない状況になったのかもしれないが、各地域で自主防災組織ができているようだが、私たちの町も最近取り組んでいて、防災訓練を行ったのだが、組織の役員だけが役割を果たしていたのだが、そういった中に中高生が入ってきて一緒に地域ぐるみで自主防災ができたらいいなと感じている。

委員

私はかつて教員をやっていたが、子どもたちの心をつかむのは、一緒に子どもたちと遊ぶことで、そのことで子どもたちの心が豊かになっていく。しかし、今の先生は忙しくて子どもたちと一緒に遊べない。学校だけでは子どもの心つかむことはできない状況だ。子どもの貧困と言われるが、これは子どもの心の貧困でないかと思う。子どもの心を満たしてあげられるのは地域であり、皆さんが発言されているとおりで、子どものことを第一に考えてたいものである。

会長

先ほど、「我が家のすこやか日記」についての発言があったが、事務局に紹介して欲しい。

事務局

「我が家のすこやか日記」は8年前から取り組んでおり、それまでは、「我が家のすこやか川柳」というものだったが、平成21年度に「家庭教育フォーラム」を開催し、その開催に合わせて「我が家のすこやか日記」を作成し始めた。県内のありとあらゆるチャンネルを使って家庭に関するテーマの日記の作品を募集し、幼稚園児からお年寄りまで当初は約500作品程度が、現在では

全市町村から約2500作品の応募がある。「我が家のすこやか日記」は県内の全保育園、幼稚園、小中高等学校や公民館に配付している。

委員

これまでもまちづくりのことで述べたことがあるが、今までは、まちづくりを大人だけでまちの未来を考えていた反省がある。これからは中高生など若者の意見を取り入れるように大人が変わらないといけないと痛感している。笠岡市の真鍋島では小学生7人全員で10年後の将来を考えさせる取組をしている。このような取組を小学校単位でできればと考えている。子どもたちに考えさせることで、自分達もまちづくりに役立っていると思わせることが大切だ。

今日は、浅口市の事例の紹介をいただいたが、行政組織の縦割りで家庭に関する取組を行っていると思うので、それぞれの取組内容を紹介していただきながら、広い目での家庭教育に関する提言につなげていくとよいと考える。

委員

就学前の子どもたちは保育園や幼稚園などに通っていて、そこに保護者がいるように、教育委員会の取組だけでの議論では網羅できない。例えば次回は、電話相談に携わっている方、保健福祉部や県民生活部の方などにも来てもらって、家庭への支援の現状を説明していただくと議論が広がるのではないかと考える。

会長

浅口市の事例は、教育委員会だけではなく他の部局と連携している素晴らしいものであったが、議論の中で、保健福祉部や県民生活部などが行っている現状などの情報が知りたいという意見があった。

次回の会議の予定では、家庭教育支援の方策について議論することであったが、その前に教育委員会以外の家庭への支援の実践等の情報を紹介いただき、それを踏まえて、家庭教育支援のあるべき姿について議論していきたいと考えるが、事務局はどうか。

事務局

審議会の提言の後ろ盾により、新プランや予算要求に反映できる見通しとなった。家庭教育支援についても、平成30年度の予算要求に反映できるように7月までに提言をいただきたいと考える。その上で、審議の回数が少ないとの指摘も踏まえながら、幅広い議論ができるよう外部や他の部局に説明してもらうなど、やり方を工夫して対応したい。

会長

家庭教育支援に役立つ提言が出せるよう我々も協力していきたい。会議の回数が少ない意見もあったが、提言が予算等へ反映できるタイミングのこともあるので、7月に提言する方向で、回数ややり方など、できる範囲で事務局に検討していただきたい。

それでは、終了時刻になったので、このあたりで終結したいと思う。

○「2 議事（2）協議事項「その他」

会長

特に無いようなので、これで協議を終結し進行を事務局に返します。

閉会